

校長室だより

春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

つり さお
魚と釣り竿

子どもに与えるのは「魚」か「釣り竿」か。この議論は、学校教育の中でよくされてきました。子どもに与えるのは、「知識」か「知識を獲得する方法」か。

教育というのは、子どもの今もさることながら、子どもの10年後、20年後を見据えて行っていきます。この子の世話ができる大人がそばにいなくなった時に、この子が自力でどれだけ生きていけるかということを考えなければなりません。

子ども同士のトラブルに、大人が口出しして解決することは簡単なことです。テストの答えを教えるのは簡単なことです。しかし、子どもが自力で問題を解決する力を奪ってしまいかねません。

「魚」だけを与える教育をしていると、子どもが大人になっても「魚」を与え続けなければなりません。

魚の釣れない日を経験するかもしれませんが、「釣り竿」を持たせる教育こそが、自立した大人を育てる教育だと思います。

“きたほめ”教育

きた ほ
鍛えて褒める教育、すなわち、“きたほめ”教育が平成28年度からの福岡県の教育法方針となります。

「鍛える」ということは、自分が背伸びして頑張れば手が届くかなあというくらいの目標を持たせ、それに向けて、子どもが自力で目標を達成できるように大人が見守っていくことです。そして、できた時には心から「ほめる」。これが“きたほめ”教育です。

子どもの側からすれば、特段頑張ってもいないことを褒められてもさほどうれしくはありません。しかし、自分が一所懸命頑張ってきたことを認められることほどうれしいことはありません。そして、そのことは、次の目標へ向かうエネルギーとなっています。

「宿題」にしても、「〇〇オリンピック」にしても、春日小学校の先生たちは子どもたちを鍛えます。それは、できるようになった姿を褒めたいからです。そして、子どもたちにできる自信を持たせたいからです。



オオイヌノフグリ

イヌノフグリ イヌノフグリ
だれが名付けた イヌノフグリ
春を知らせる イヌノフグリ
愛らし 愛らし イヌノフグリ
だれが名付けた オオイヌノフグリ

梅の花がにぎわい出し、地面を見ると、水色の小さな花が群れて咲いています。オオイヌノフグリです。

なんと可愛らしい花でしょう。それなのに、この花の名はオオイヌノフグリなのです。この花の種の形が犬のフグリ（糞丸）に似ているところからこの名前が付られたそうです。

ちょっとかわいそう。(ToT)

聖女ヴェロニカ

オオイヌノフグリは、ヨーロッパでは“聖女ヴェロニカ”と呼ばれているそうです。

イエス・キリストがゴルゴダの丘を十字架を担がされて歩いている時に、これを見て哀れに思った一人の女性がイエスの汗と血を白いハンカチで拭ってあげました。この女性の名前がヴェロニカ。

この時、イエスの足元には小さな青花（オオイヌノフグリ）がたくさん咲いていたそうです。それで、ヨーロッパでは優しさと慈しみの象徴として、この花を“聖女ヴェロニカ”と呼ぶようになったということです。

この花を見ると卒業式の香りがしてきます。卒業式まで後17日。学校は、卒業式に向けて動き出しました。

